

2-22-2 大原彦四郎の墓

飛騨の第 12 代代官大原彦四郎つぐまさ紹正は明和 2 年（1765）高山陣屋に着任し、幕府の方針により御用木元伐休止や検地による増石などにより、郡代に昇任した。しかしこれら厳しい政策は領民の反発を招き、明和・安永の大原騒動が起こった。一方彦四郎は俳句を嗜み、清流亭楚諾と号して俳壇水音社すいおんしゃを結成し、その宗匠となった。安永 8 年（1779）9 月 22 日陣屋にて没し、墓には側面から裏にかけて彦四郎の事績と俳句が刻まれている。墓は建立当初から幾度か倒され破損している。向かって右は、長男勝次郎照正の墓で、こちらも傷みが甚だしい。

第 13 代郡代を継いだ子の亀五郎正純（勝次郎の弟）も失政が続き、天明の騒動を引き起こしている。

高山市教育委員会
説明板より